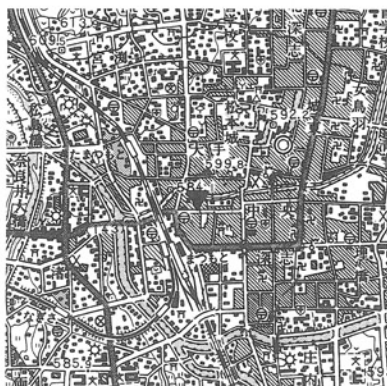


長野・松本城下町跡伊勢町
まつもとじょうかまち いせまち

- 1 所在地 長野県松本中央一丁目
- 2 調査期間 第一四次調査 一九九七年(平9)六月～七月
- 3 発掘機関 松本市教育委員会
- 4 調査担当者 高桑俊雄・村田昇司
- 5 遺跡の種類 城下町跡
- 6 遺跡の年代 近世(一六世紀後半～一九世紀)
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(松本)

伊勢町は松本城下町に二三あった町屋の一つで、野麦街道を中心に形成された。町は東西に長く広がり、安曇地方へと向かう西の玄関口であった。これまでの

調査によって、小笠原秀政の時代(一七世紀前半)以降に現在に続く短冊型の地割(間口二間から四間)に整備されていたことがわかってきた。

第一四次調査は伊勢町の北側中央部にあたり、一七

世紀前半から一九世紀後半までの整地層を五層確認した。最下層では、城下町を造る際に起伏のある自然地形を整地して平坦にした痕跡が確認された。遺構は建物・土坑が確認され、焼土面が多数検出されている。遺物にはフイゴ羽口・埴堀・鉄滓などが多数みられ、鋳物あるいは鋳掛を生業とする職人が居住していたと考えられる。木簡二点は遺物包含層から見つかった。所属した遺構・整地層などは不明である。

8 木簡の釈文・内容

(1) ・「
大〇 市田源秀荷物
松本□□」

・物



188×59×5 011

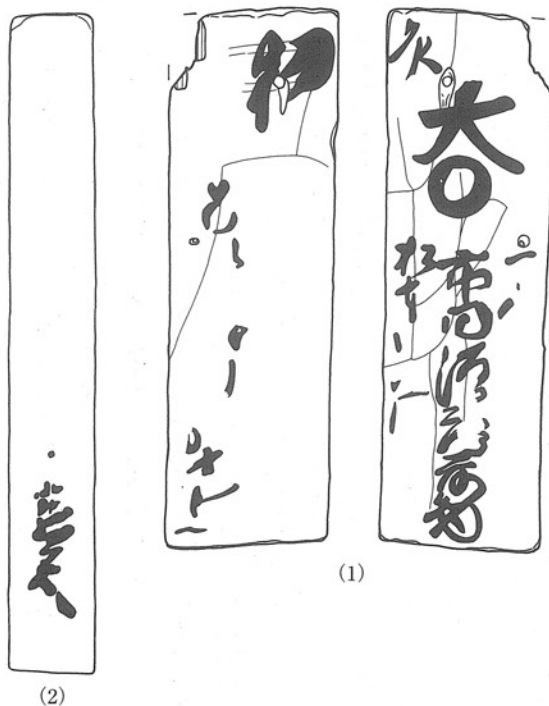
(2) 「壹尺」

228×30×13 011

(1)は上部が一部欠損している。柱目材の荷札木簡で、表面中央右よりの位置に穿孔がある。(2)は板目材で完形。用途不詳。

なお、釈読にあたっては、信州大学の山本哲二氏のご教示を得た。

(廣田早和子)



(桐生及び足利・栃木)

形成された小支谷に八幡山を背に東面する堂宇が展開する、源姓足利氏の氏寺・廟所跡である。その創建は、足利氏二代義兼による文治五年（一一八九）の奥州合戦の際の戦勝祈願に基づく
とされ、この頃に最初の堂舎が建立されたと推定され

- 1 所在地 栃木県足利市樺崎町
- 2 調査期間 記念物保存修理事業第三年次 二〇〇三年（平15）八月～二〇〇四年三月
- 3 発掘機関 足利市教育委員会
- 4 調査担当者 板橋 稔
- 5 遺跡の種類 寺院跡
- 6 遺跡の年代 鎌倉時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

かばさきでら 栃木・樺崎寺跡